



ハートフルナース

日本の腎不全医療を インドネシアへ

インドネシアにおける腎不全医療に貢献をすべく、インドネシア腎臓病専門医を日本で受け入れるプロジェクトを公益財団法人日本アジア医療看護育成会でも支援することとなりました。



名港共立クリニック 佐藤 隆院長の説明を受ける、インドネシア医師 メルダ先生

このプロジェクトは、当財団の代表理事 川原弘久が所属する偕行会グループによって進めているものです。今回の偕行会グループが進めるプロジェクトは、当財団が掲げているインドネシアでの医療活動支援に繋がるため、財団で支援していく運びとなりました。

インドネシア人腎臓病専門医の日本研修プログラムは、昨年10月からスタートし、現在までに2名受け入れ支援をしています。研修は2ヶ月間、偕行会グループの病院や名古屋大学医学部附属病院にて実施しています。

インドネシアの現状

インドネシアの腎臓病専門医師は80人程度しかおらず、日本の人口の2倍を誇るインドネシアにおいて非常に数が足りていないのが現状です。また、インドネシアは、急激な経済成長に伴い生活習慣病が増え、今後糖尿病からの透析患者が増加すると予測されています。これらの背景もあり、インドネシアの腎不全医療水準向上は、急務となっています。

インドネシアに戻って

研修を終えた先生方は、改めて日本の医療技術力の高さに驚かれています。また、インドネシアに戻られたら、日本のチーム医療の考え方や電子カルテシステムなどを導入できるよう考えていきたいとのことでした。

当財団では、これらの支援を通じて、インドネシア看護師だけでなく、インドネシア医師の育成にも力を注ぎ、今後益々のインドネシアの医療水準向上へ導いていきたいと考えています。



名古屋共立病院にてPTA研修をするインドネシア医師 ヴィディア先生